

第5回 豊田市教育行政計画審議会 議事録

【日 時】令和3年9月24日（金）13:30～15:18

【形 式】オンライン会議

（傍聴会場：豊田市役所東庁舎6階 教育委員会会議室）

【出席者】

（委員）

野田 敦敬	（愛知教育大学 学長）	《会長》
牧野 篤	（東京大学大学院教育学研究科 教授）	《副会長》
井村 美穂	（NPO 法人子どもの国 理事長）	
大山 卓	（豊田市青少年相談センター 主幹）	
久野 友士	（豊田市小中学校長会 会長）	
近藤 かおる	（豊田市崇化館交流館 館長）	
鈴木 孝寛	（豊田市区長会 理事）	
鈴木 悠介	（一般社団法人豊田青年会議所 理事長）	
都築 知己	（豊田市青少年健全育成推進協議会 副会長）	
寺井 之保	（市民公募委員）	
益城 啓	（豊田市PTA連絡協議会 副会長）	
水野 愛	（市民公募委員）	
若子 理恵	（豊田市子ども発達センター センター長）	

（計13名）

（事務局）

山本 浩司	（豊田市教育委員会 教育長）
澤平 昭治	（豊田市教育委員会 教育部長）
粕谷 浩二	（豊田市役所 生涯活躍部長）
竹内 寧	（豊田市役所 子ども部長）
三浦 法雄	（豊田市教育委員会 教育部副部長）
吉野 薫	（豊田市教育委員会 教育監）
岩月 章	（豊田市教育委員会 学校教育課長）
中垣 秋紀	（豊田市教育委員会 教育政策課長）
清水 昭子	（豊田市教育委員会 教育政策課 副課長）
志村 和彦	（豊田市教育委員会 教育政策課 担当長）
青木 宏羽	（豊田市教育委員会 教育政策課 主任主査）
木戸 峻人	（豊田市教育委員会 教育政策課 主査）

【傍聴者】 5名

- 【議 事】
- 1 教育長あいさつ
 - 2 会長あいさつ
 - 3 会議録署名者の指名
 - 4 報告事項
 - (1) パブリックコメントの結果について
 - 5 議 題
 - (1) (仮) 第4次教育行政計画審議会の答申(案)について
 - (2) 次期計画の名称案について
 - (3) 効果的・効率的な計画の推進について
 - 6 その他

開会

事務局

ただ今から第5回豊田市教育行政計画審議会を開催します。

本日は新型コロナウイルス感染症の影響で、オンライン会議形式での開催とさせていただきます。進行に不慣れな部分もあるかもしれませんが、何卒ご了承ください。

この審議会は原則公開としています。また、会議録につきましても、市民の皆様がご覧いただけるように、市のホームページに掲載しますので、ご承知おきください。本日は傍聴される方が5名いらっしゃいます。

(配布資料の確認)

本日はお手元の次第にもとづいて進めさせていただきますが、次第5の議題の途中に、一度、傍聴会場の換気のための休憩を入れる予定ですので、ご承知おきください。

1 教育長あいさつ

事務局

はじめに、豊田市教育委員会の山本教育長からごあいさつを申し上げます。

教育長

皆様こんにちは。現在緊急事態宣言が東京都や愛知県に出されている中ではありますが、早急にご審議いただきたい議題もございますので、オンライン会議形式で審議会を開催させていただきました。

現在の小中学校の様子ですが、新型コロナウイルス感染症に感染した児童生徒が大変増加いたしまして、夏休み明けの学校のスタートが心配されました。豊田市では、感染対策を十分に行う、学校行事の延期・中止を検討する、体調不良児等の対応についてご家庭に協力をお願いする、などに取り組みまして、通常通りの学校の再開と致しました。現段階では、休校の対応は行っていない状況です。今後も引き続き緊張感をもって、慎重に状況を判断しながら対応して参りたいと考えています。

昨年7月に当審議会へ諮問させていただきました。これまで4回の審議会において活発な審議をいただきました。大変ありがとうございます。約1万2千件規模のアンケート調査や関係団体へのヒアリングを実施し、市の現状と課題、国や社会の動向を踏まえ、今後本市で取り組んでいくべき重点施策・基本施策を設定し、計画素案を策定しました。本日の審議会では、7月に実施したパブリックコ

メントの結果報告や、10月の答申へ向けた素案の確認、計画の名称など重要な内容を議題とさせていただきます。本日は最後の審議会となります。それぞれのお立場からご意見をいただきますようお願いいたします。

事務局 ありがとうございます。

2 会長あいさつ

事務局 野田会長よりごあいさつをいただきます。

野田会長 皆様こんにちは。昨年7月に第1回がありまして、本日がいよいよ最終回となりました。今年度の2回はオンライン形式となりました。委員の皆様につきましては、非常にご多用の中、たくさんの資料に目を通していただきまして、いつも貴重な意見をいただきありがとうございます。また、アンケートの回答やパブリックコメント回答について、事務局が丁寧に分析し、まとめていただきました。

(仮)第4次教育行政計画では「未来を拓く学び合い」をキーワードに決めていただきましたので、これを実現するための計画の更なるブラッシュアップをしていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

事務局 ありがとうございます。

3 会議録署名者の指名

野田会長 はじめに会議録署名者の指名を行います。

「豊田市教育行政計画審議会及び部会の会議の傍聴及び会議録の公開に関する要綱」に基づき、会議録を作成したときは、「会長及び会長が指名した者の代表署名をとる」ことになっています。

そこで、私から署名者をご指名します。名簿の順で4番目の近藤委員を指名しますので、よろしくお願いいたします。

近藤委員 (了承)

4 報告事項

(1) パブリックコメントの結果について

野田会長 本日の審議に入ります。

まず、本日の会議のねらいをご説明します。次第4の報告事項(1)では、7月に実施いたしました「パブリックコメントの結果について」の概要をご報告します。

続いて、次第5の議題(1)では、パブリックコメントの結果等を踏まえながら、今後の答申案となる計画図書の素案を協議していきたいと思っております。さらに、議題(2)では、次期計画の名称案について協議してまいります。最後に議題(3)では、効果的・効率的な計画の推進に向けた意見をできるだけ多くの方からご発言いただきたいと思っております。

それでは、報告事項「(1)パブリックコメントの結果」について、事務局から説明をお願いします。

事務局 (資料1～21ページを説明)

野田会長 ただ今の説明について、ご意見・ご質問がありますか。

A 委員 多くのご意見をいただき、市民の声が良く届いているなと思います。今回のパブリックコメントについてホームページに掲載するときに、もう既に取り組んでいることがあれば、その旨を記載した方が市民も安心すると思いますが、いかがでしょうか。

事務局 いただいたご意見を踏まえ、公開の際の表現を検討していきたいと思います。

5 議題

(1) (仮) 第4次教育行政計画審議会の答申(案)について

野田会長 次第5の議題に進みたいと思います。議題(1)「(仮)第4次教育行政計画審議会の答申(案)について」ですが、まずは第1章・第2章について事務局から説明をお願いします。

事務局 (資料22ページ及び別冊資料の第1章・第2章を説明)

野田会長 計画の素案のうち、第1章と第2章についての説明がありました。ただ今の説明について、ご意見・ご質問がありますか。

B 委員 別冊資料2ページの計画の位置づけの修正については、前回の審議会で私から質問した箇所ですが、この修正内容で問題ないと思います。

野田会長 続いて、第3章の重点施策について、事務局から説明をお願いします。

事務局 (別冊資料の第3章を説明)

野田会長 19ページの目標について「ICTを活用することにより、個別最適な学びと協働的な学びが増加している」という表現がありますが、学びが増加するという表現に違和感があります。「相乗効果が表れている」などという表現の方が良いのではないかと思いますので、ご検討ください。

C 委員 27ページにある「新たな居場所」について、不登校の子どもたちにとっては大きな意義があると思いますが、この文言を追加した意図や、どんなものを想定して追加したのかをお聞かせください。

事務局 26ページの成果指標の2つ目「不登校児童生徒のうち市の不登校対策事業により支援している児童生徒の割合」を増やすことを目標にしています。新たな居場所づくりをすることにより、少しでも不登校児童生徒の助けになればという思いです。

豊田市は非常に市域が広く、色々な地域に不登校児童生徒がいることを考えると、適応指導教室が市中心部のパルクとよた1か所のみですので、その他の場所も考えながら、それぞれの場所で、それぞれの子が、社会的自立を目指した活動・教育ができるように新しい場所で居場所づくりができると良いと考えて追加しております。

B 委員 新たな居場所づくりが計画に位置づけられるのは非常に良いと思います。ただ、物理的な居場所で、その場所において支援するというだけでなく、子どもたち自身が、自分が社会に位置づいていて「ここにいてもいいんだ」と思えるような主観的な承認関係が担保できるような表現があると良いと思います。個別最適な学びと協働的な学びの相乗効果を得るためには、子どもが学んだことを他者と共有する学び合いや教え合いが行われると良いのですが、その前提には承認関係という関係性が必要です。その関係性を作っていくための精神的な居場所づくりをしていくという表現があると良いと思いますが、いかがでしょうか。

- 事務局 今年度から、保護者と学校がよく相談をした上で、不登校児童生徒に対してオンラインで繋がるような支援も始めています。個別支援については、その子に合った形で実施していきますので、新たな居場所へ出かけられる子に対してはその場所での支援を、オンライン支援を希望する場合はオンラインでの支援を行っています。先程の指標にもそうした実績を反映させていきます。ご指摘のあった個別最適な学びと協働的な学びを合わせたものについては今後検討していきます。
- 野田会長 個別の支援についてはそれで良いと思いますが、いかに協働的な学びの場に貢献できるかについてはもう少し踏み込んで考えていただきたいと思います。
- B 委員 いかでしょうか。
- B 委員 町田市の事件のこともあり、学習用タブレットが配布されたことにより、いじめが家庭に持ち込まれて命を絶ってしまうような事例が起こることが懸念されます。SNS に若者が夢中になるのは、感情以前の情動が誘発されることによるものであるということが最近指摘されていて、より強い刺激を求めて SNS 依存から抜けられなくなってしまうと言われています。新たな居場所づくりに加え、学校現場など日常的な環境の中で、子どもたちが互いに関わり、配慮し合い、共に学び合うようになればいじめの抑制にもなるので、そのことを意識すると、計画の表現を変えるべきなのかとも感じました。
- 野田会長 新たな居場所づくりという文言を加えたので、物理的な居場所のことだけではなく、精神的な居場所づくりとして、自己有用感を高めることも考えていただきたいと思います。最終段階ですので、計画の表現はこのままにしておき、事業の中身で反映していただければと思います。
- A 委員 前回の議論を踏まえ、特別支援教育推進事業の新たな成果指標を設定していただき、ありがとうございます。個別の教育支援計画は今後の充実を期待していたところでしたので、良い指標と感じました。
- D 委員 30ページの特別支援教育推進事業の福祉連携について、放課後デイサービスなど児童期・学童期を対象とする福祉事業所が増えてきていますが、質の問題があります。自然集約的に質が上がってくるのではなく、学校のような児童の支援の専門家の意見を聞きながら、この分野が充実していくと良いと感じていますので、このような文言が追加されたことをとても心強く思っています。
- D 委員 居場所に関連して、現在、外国籍で特別支援が必要な子どもがとても増えています。そうした子どもに、自分が大切にされたという記憶を残せるようにしたいという思いで居場所づくりを行っていますが、なかなか難しい部分もあります。福祉との強い連携の下、通訳・日本語指導員・福祉の専門家がチームになって取り組んでいく必要性があると強く感じています。
- 野田会長 31ページには、日本語指導が必要な児童生徒は910人となっており、在籍する小中学校は54校となっていると記載があります。これまでは、そうした児童生徒が暮らす地域に偏りがありましたが、現在は各地域に点在するようになったという印象ですので、より重点的に取り組む必要があると感じます。
- E 委員 42ページの主な実施内容の部分に、「交流館等と地域学校共働本部の連携強化」とあり、先程のご説明で、パブリックコメントを踏まえて、モデル地区に関わらず地区の特性を生かしていくように変更されたと伺いましたが、現在の状況に合っていて良いと思います。交流館と学校と地域コーディネーターとは情報共

有を進めているところで、その中でなかなか連携が難しいこともありますが、個々の連携強化をしていくことは是非期待したいです。また、地域には様々な技術を持っている方やボランティアの方がいらっしゃいますので、これからもコミュニティ・スクールを推進していければ良いと思います。

B 委員 豊田市はコミュニティ・スクールの先進地域ですし、とても素晴らしい実践をしているので、学校運営協議会を置かずにコミュニティ・スクール連絡会議を置いて地域と密接な関係を作りながら学校を運営し、そのことが教員の多忙化解消に繋がる、いわゆる「豊田方式」の成果をもっと強調しても良いのでは思いますがいかがでしょうか。

事務局 豊田市で当たり前のように使っているコミュニティ・スクールという言葉ですが、ご指摘のとおり、国の概念とは少し違って「豊田方式」で行っていますので、文言の追加について検討したいと思います。

F 委員 教職員多忙化解消推進事業について現場は非常に興味があります。時間外在校時間の月45時間以内というのはまだまだ厳しい状況ですが、時間をかけてやっていくことで、成果が出てくるのではないかと思います。

地域との連携による部活動について、現在モデル校で様々な実施方法の検討をしております。自分の学校に一番合った方法を模索していくことが大事だと思いますので、これから形を作っていくという意味で、この表現で良いと思います。

G 委員 2019年にコミュニティ・スクール連絡会議が発足して、地域の子どもたちに関わる活動について話し合いをしてきましたが、まだコミュニティ・スクールという制度の活用が十分にされていないような印象を受けます。42ページにコミュニティ・スクール連絡会議の充実などの記載がありますので、更なる充実がされることを期待します。

H 委員 29ページの下から4行目に「通級指導教室」という表現があり、30ページの事業概要に「通級による指導」という表現があります。特別支援教育の中では、「通級による指導」という言葉の方が一般的で、市民にとっては分かりづらいと思いますので、29ページの方も「通級による指導」に言い換えてはどうかと感じました。

もう1点、27ページの一番下に「適応指導教室」という表現がありますが、文部科学省では「教育支援センター」という言い方をされており、新しい居場所としての方向性もあるかと思しますので「適応指導教室（教育支援センター）」というように付け加えた方が市民には分かりやすいかと思します。

事務局 用語の使い方につきましては、一度事務局で検討しまして、改めて整理していきたいと思します。

A 委員 31ページの日本語指導が必要な児童生徒の数につきまして、前回の素案から数字の変更がありますが、今回の数値が正しいということによろしいでしょうか。

事務局 次第資料の主な修正点からは割愛させていただいていますが、御指摘のとおり変更していますので、本日の資料に掲載した数値が正しい数値となっております。

野田会長 続いて、第4章の基本施策から第5章の計画の推進、資料編を一括して、事務局から説明をお願いします。

事務局 (別冊資料の第4章、第5章及び資料編を説明)

野田会長 ただ今の説明について、ご意見・ご質問がありますか。交流館の指標等が追加

になっていますが、E委員いかがでしょうか。

E委員 市民活動促進計画とも連携する部分かと思いますが、この内容で問題ないと思います。

B委員 46ページの(3)施策の柱の「③豊かな人間性を育む教育の推進」について、列挙されているのが多様性の尊重や支援という内容なので、「豊かな人間性」というよりは「多様性やインクルーシブ、共生」という意味合いになっているのではないかと思いますがいかがでしょうか。

事務局 こちらの施策の柱につきましては、第8次豊田市総合計画と整合を図る形で記載しております。ただ、いただいた意見を踏まえまして、より良い表現があれば修正していきたいと思いますので、改めて検討させていただきます。

C委員 B委員のご意見に関連して、多様性への配慮という表現をされていますが、そういった心遣いの前には、まず理解することや知ることが必要になると思いますので、そのことを子どもたちに教育をした上で、豊かな人間性を育むということに繋げていければ良いと思います。

野田会長 豊田市教育行政計画審議会の答申(案)については、様々なご意見がありましたが、概ね了解いただいたということで、最終的な判断につきましては、私と事務局の方に一任ということでよろしいでしょうか。

各委員 (異議なし)

(2) 次期計画の名称案について

野田会長 続いて、議題「(2) (次期計画の名称案について)」を協議したいと思います。
事務局から説明をお願いします。

事務局 (資料25ページを説明)

野田会長 ただ今の説明を踏まえまして、名称案としては「第4次豊田市教育行政計画」としたいということですが、いかがでしょうか。

各委員 (異議なし)

(3) 効果的・効率的な計画の推進について

野田会長 最後に、議題「(3) 効果的・効率的な計画の推進について」を協議したいと思います。

事務局から説明をお願いします。

事務局 (資料26ページを説明)

野田会長 ただ今の説明について、ご意見・ご質問がありますか。

D委員 計画図書の概要版について、やさしい日本語やルビ付きでも作成していただきたいと思います。保護者によっては、日本生まれ日本育ちで、母国語で会話はできて母国語の文字が読めない方がいますので、もし可能なら概要版をよりシンプルにしていきたいと思います。

事務局 やさしい日本語につきましては、市役所内でも推奨されておりますので、いただいた意見を踏まえて、適切なものを制作したいと思います。

F委員 資料にある配布先には、計画図書と概要版の両方を配布するという理解で良いでしょうか。

事務局 概要版につきましては、記載の配布先をはじめとして幅広く、多くの部数を配

布する予定です。計画図書につきましては、関係機関を絞り込み、ピンポイントで配置しようと考えております。

F 委員 来年4月の新学期に合わせて、学校で概要版を配布できると良いと感じましたので、ご検討いただきたいと思います。

C 委員 保護者へは児童生徒の学習用タブレットを活用して周知とありますが、これは新しい計画ができましたという情報提供のみになるのか、計画図書のデータを見てくださいという形式になるのか、どちらでしょうか。先日、PTAで保護者の方に動画を見ていただくようお願いしたところ、ほとんどの方が見ていただけなかったので、気になりました。

事務局 学習用タブレットにつきましては、週に1回程度の持ち帰りが各学校で始まっております。タブレットを通じて計画図書のデータにアクセスできるような形を予定しておりますが、その際には何らかの形で、保護者の方にそのデータの存在に気づいていただけるようなお知らせをしていきたいと考えております。その中で、例えばQRコードを使用して直接見ていただけるような工夫などを含めて検討していく予定です。

G 委員 イラストイメージが小さいので、ポイントの説明をお願いします。

事務局 デザインについてはデザイン事務所に依頼しており、絵本の制作もしております。事務局の印象としては、親しみ易く温かい印象を与えるものになっていると思いますので、そういったテイストを大事にしていきたいと考えています。めざす人物像と重点施策のイラストについては、別冊資料11～12ページの文言に対応しております。

I 委員 イラストにつきまして、もう少し地域性が分かるものを入れていただきたいと思います。

事務局 地域性につきましては、表紙・裏表紙のイラストの中で、豊田スタジアムや香嵐渓や足助の町並みなどを代表的な地域のアイコンとして掲載しています。豊田市の教育行政計画と一目で分かっているようなイラストを考えていきたいと思っております。

野田会長 他にご意見・ご質問がありますか。

各委員 (異議なし)

野田会長 以上で、本日の議事につきましては、すべて終了しました。

委員の皆様方には、長時間にわたり、議事の進行にご協力をいただき、誠にありがとうございました。

6 その他、閉会

事務局 委員の皆様、お疲れ様でした。

(今後のスケジュールについて説明)

それでは、以上をもって第5回豊田市教育行政計画審議会を終了とします。

以上

この会議録は会議の内容と相違ないことを証するため、ここに署名する。

令和 3 年 / / 月 / 日

豊田市教育行政計画審議会会長

野田 豪 敬

豊田市教育行政計画審議会委員

近藤 かおる